

20091

Spider view 描出についての検討

【背景・目的】Spider view(以下 SV)は LMT 分岐部評価の際に重要な角度である。しかし SV は体格差や冠動脈の解剖バリエーションにより様々で、分岐部として有効に評価できる角度の描出が困難である。**【方法】**理想的な SV の角度を知るために冠動脈 C T 検査 100 件から MIP 画像を構築し、より有効に分岐部評価出来る SV の理想的角度をシミュレートした。また、その結果を冠動脈造影にフィードバックできるかを検討した。**【結果】**当院では Philips 製の Allura Xper FD10/10 を使用しており、Caudal view(以下 CA)の最大角度が 30° 以上は現実的ではなかった。よって冠動脈 C T の CA は 30° に固定し、LAO の角度を 1° 毎増加させ視覚評価を行った。平均角度は LAO 57.3° であり、LAO 60° で 72.3% 、LAO 70° であれば 90% の確率で LMT 分岐部の評価可能な画像を描出できることが示唆された。この結果を冠動脈造影にフィードバックしたところ、当院の機器ではバイプレーン撮影の際に X 線管球と既存の手台で干渉が問題となり反映が困難であった。そこで、干渉を減らすため手台をコンパネ板で自主制作した。結果、より深い角度へのアンギュレーションが可能となり、本研究前の実臨床では SV 平均角度が LAO 42.6° CA 30.4° であったのに対し、本研究後の SV 平均角度は LAO 60.6° CA 29.6° (最大角度 LAO 70° CA 30°) まで改善することが出来た。**【考察】**深い角度で SV を描出することで必然的に被ばくも増えるため、冠動脈造影や心臓 CT 検査歴がないか等事前の情報収集が重要であると考え